
台風達の本音

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

台風達の本音

【Nコード】

N1114N

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

新世代作品降臨！台風達は、本当は人間やいろんな物を壊したくはないと思っているのだろうか？本音が感動呼び、時には残酷な結末を生む。パラレルワールド形式作品。台風は擬人化しています。

第一号 破壊なんて受け継ぐものじゃない(前書き)

ハイクイとロンワンは台風の殺戮の力を受け継ぎ、人間に惨劇をもたらすのだが・・・過去の過ちに気付く

第一号 破壊なんて受け継ぐものじゃない

2000年のある日、ロンワンという台風が誕生した。

その台風は、のちに台湾を恐怖のどん底に陥れた台風となる。

ダムレイは、臆病で髪の毛がまるで象の耳みたいになっている。

髪を梳かすのが、怖いのである。

ロンワンとダムレイは、ぶつかってしまった。

「大丈夫かい、ダムレイちゃん？」

「いえっ、大丈夫ですロンワンさん。」

ロンワンとダムレイは、別方向に移動した。

ロンワンは、パーマアがまたサリカーにいじめられているのを見て止めに入った。

「また、君達はいつもつまらないことで喧嘩になりおって！」

「だって、パーマアが背が小さいくせに胸が少し大きいのが腹立つて。それで喧嘩になったのよ！」

サリカーは、背は小さい事がコンプレックスになっている。

ロンワンは、パーマアが別のところに行くまでサリカーと一緒にあ

った。

そして、ロンワンは人間界を見ていた。

「台風なんてバカなんだよ。」

「サーフィンの特別ステージを作ってくれるところが天才だな。天災だけに・・・」

「お前、寒いんだよ！」

台風であるロンワンは怒りが込み上げてきた。実はロンワンは多重人格で怒りが一定よりも上に昇ると裏の人格に変わってしまうのである。

人間界で3人の少年が言っていたことが台湾に惨劇をもたらし始める。

2005年の台湾。台風の姿のロンワンが怒りが爆発して裏の人格になっていた。

大雨と突風が台湾の人を震え立たせていた。

人間の姿になったロンワンは、三人の少年を見た。

「お前等、台風を馬鹿にした罰を食らえ！」

「台風を馬鹿にしませんからごめんなさい・・・」

謝罪した3人の声は、ロンワンに届いたが時すでに遅しかった。

3人の胸に、三本の風ナイフが刺さっていた。

3人の少年は死亡していたことにロンワンが気がついた。

「俺は、どうしても此の3人がいたはずら気味で言っていたことに腹を立てて台風や自らを暴走させてしまった。」

ロンワンは、涙を流していた。

此の大雨の中で起きた惨劇をロンワンは、忘れずにいた。

そして、ロンワンはハイクイに後を託した。

「俺は、ロンワンさんの気持ちを引き継いで見せます。」

「君は、不要なる残酷な行為はしないでほしい。」

台風達の本音

台風達の本音

ロンワンのトラウマにまだ気づくことができないハイクイは少しだけ首をかしげた。

ハイクイの出番となり、ロンワンにあることを言った。

「俺が、台風が人殺しや破壊行為を本当はしたくないということを人間に教えに行くよ。」

しかし、これが誤算を呼ぶことになってしまった。

ロンワンは、安心して自然界を歩いていたら、ダムレイが慌てて走ってきた。

「どうしたんだい？ダムレイちゃん。」

「ハイクイさんが人を殺し始めたの。」

「どういうこと？」

「私、ハイクイが人間の持っている棒を武器と勘違いしているの。」

「ということはつまり、まずいんじゃないのか！」

ハイクイは、勘違いしているのにもかかわらず不甲斐なき残酷な行為を行っていた。

「突風オープン！」

突風で看板をはねとばし、人間に当てた。

人間の持っていたのは武器ではなく、ただの調査棒だった。

「やめてくれ、我々は調査をしに来たんだ。」

左足から血が出ている男性がそう言った。

ハイクイは、風ナイフで男性を刺し殺そうとした時、ロンワンがやってきた。

「やめろ！ハイクイ。」

「どうしてですか、ロンワン。こいつを殺さないと台風の正体を知らしめることになりますよ。」

「別にいいんだ。我々、台風は自らもその姿が分からないのだから。」

ロンワンは、辺りを見回した。

水と血が一緒になっているところがいくつか点在していた。

「ハイクイ、お前は俺が不甲斐なき残酷な行為をするなどあれほど言ったのに。」

ロンワンは、裏切られた気持ちになり、涙目になり始めた。

ハイクイは、正気に戻ってロンワンに謝罪をした。

「すまない、ロンワン。俺が人間の見方を間違えたからこんなことになったんだ。」

風ナイフが、ハイクイの左腹に刺さった。どうやら自らの意思で風の力を利用して刺した。

ロンワンは、ハイクイが自らの意思で風ナイフを左腹に刺した途端、あることを言った。

「ハイクイ、お前まさか……。」

「ああ、自らの意思でけじめをつけたのさ。人間なら普通死んでいくぐらいの痛みだが、自然にとっては重傷程度だな。ゴフツ！」

ハイクイは、痛みに耐えようとしていたが血を吐いてしまった。

ハイクイの目から7粒涙がこぼれおちた。

ロンワンは、ハイクイの出血量が次第にひどくなっていることに気付いた。

「これはまずいぞ。いくら自然でもこれぐらいでは致命傷になりかねない。」

ロンワンは、ハイクイと一緒に自然界に戻った。

第一号 破壊なんて受け継ぐものじゃない(後書き)

次回、第二号 苦しみ?そんなものが。お楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1114n/>

台風達の本音

2010年10月8日23時13分発行